

自分らしく生きられる社会へ

守山南中学校三年

奥村 紗代

石井夫妻の人生で起こった様々な話を聞いた。部落に住んでいるという理由で差別されたこと、部落に住んでいる人と仲良くなれないほうが良いという理由で多くの差別を受けてきたということを知った。もし自分がたくさん差別を受ける生活を送っていたらと思うと、そのつらさや悲しさがこみあげてくるのを感じた。しかし、自分の中で、差別を受ける悲しさを完全に理解できていないことに気付いた。それは、差別に関してどこか他人事のように考えているからなのかもしれないと思った。そんな自分に気付いた時私は、私の中で起こったある経験を思い出した。私がマイノリティになった日々のことだ。

私は、小学校三年生から五年生の三年間、韓国に住んでいた。当時の韓国では、日本の店が次々と閉店していったり、物が売れなかったりしていた状況だった。街の中で反日のプラカードを持った人たちを見て、当時の私が恐怖を感じたことを覚えている。韓国にいた時一度、私は差別的な言葉をなげかけられたことがあった。とても怖かったし、悲しかった。それまでは自分がマイノリティになるなんて考えたこともなかった。その時、マイノリティという単語は、決して特定の人だけにかかるものではなく、誰でもなりうるのだと感じた。

こんな経験をしてから、人権について深く考えることは、決して特別なことではないと考えるようになった。差別は誰の身にもふりかかる可能性があるもので、いついきなり自分がマイノリティになるかはわから

ない。だから、日頃から人権について学習を積んでいくことはとても大切なことだ。現在の社会には、部落差別、人種差別以外にも、様々な差別がある。インターネットの普及にともない、差別が増えたり、解決が難しくなったりしている。差別を少なくするため、なくすためにも、現代の社会に生きる私たちが、日頃から差別や人権について考えていく必要があるのだと思う。

また、考えたあとは行動することが大切だ。私は、英語が得意なので、外国の人とも積極的に関わったり、将来世界に出ていき、全世界で様々な問題について話し合うことができると思う。しかし、これらのことは今すぐには難しいので、学校の一時間一時間の授業を大切にし、人権学習などでも深い学びを得たいと思う。私たちには、様々な問題にも対応していける能力をもち、一人一人が助け合って、誰もが自分らしく生きられる社会を作ることが求められている。実現のため、今自分にできることを全力でしていきたい。